

# 奈良県立医科大学附属病院長選考委員会（第2回）

日時： 令和4年2月21日（月）18時00分～19時30分

会場： 奈良県立医科大学 学長室会議室

出席者： 細井委員長、宇都宮委員、中瀬委員、橋口委員、庄委員、阪上委員、山上委員  
（事務局）福益法人企画部長、奥野人事課長

## 【議事】

1. 公募の結果について
2. 選考対象者との面談
3. 選考対象者の評価について

## 【議事概要】

### 1 公募の結果について

#### ○選考委員の補充

・奈良県立医科大学附属病院長の選考に関する規程（以下、「選考規程」と表記。）に基づき、理事長指名の委員として本学脳神経外科学講座教授の中瀬氏が補充の委員となることを報告。

○全ての委員が出席しているため、出席者数が委員総数の過半数を満たすことから、委員会成立を報告。

（事務局）

#### ○本日の委員会の流れ

・公募への応募状況と選考対象者（応募者）からの提出資料を確認し、面談（プレゼンテーションと質疑応答）を実施する。

・面談後に選考対象者について評価等を議論し、推薦の可否と推薦理由について協議、検討する。

#### ○公募への応募状況

・現病院長の吉川氏から提出された応募書類について確認。

### 2 選考対象者との面談

#### 【吉川候補入室】

#### ○選考対象者によるプレゼンテーション

・吉川候補がスライドを用いて所信を表明。

## ○質疑応答

(質問) コロナ禍において、平日ERの体制構築をどのように考えているか。

(回答) 一般病院のコロナ患者を宿泊療養施設に回すよう県に依頼し、後方病院を確保したい。また、全科全床の考えで、空いている病床を有効活用することも考えたい。

(質問) 2期目に向けて、最重点課題として挙げられるのは何か。

(回答) 県内唯一の特定機能病院として、より質の高い医療を提供することに集中していきたい。県民の最終ディフェンスラインとしての機能を発揮できるように取り組むことが、最重点課題と考えている。

(質問) 働き方改革について、奈良医大として何をどこまでやるのか。

(回答) 新しい取組をする診療科をモデルとして実践し、それを各科が導入を検討するなど、前に進めていくしかない状況。また、できる限りタスクシフトする体制を構築する。

(質問) コロナの対策における、職員のモチベーション維持をどのように図ったか。

(回答) 病院を挙げて全職員で対応すること及び迅速な情報の共有でモチベーションの維持を図った。

(質問) 医療安全管理について、病院長と担当者との関係はどのようになっているのか。

(回答) アクシデント・インシデントがあると24時間体制で報告が上がってくる。副院長とも情報を共有し、医療情報推進室長と面談の上、事象の解析、原因追及、再発防止対策を迅速かつ円滑に行っている。

### 【吉川候補退出】

## 3 選考対象者の評価について

(委員長)

- ・ 吉川候補を次期病院長の候補者として推薦できる人物かどうか、各委員の意見を伺う。

(各委員からの主な意見)

- ・ 1期目のコロナ対策で自ら陣頭指揮にあたり、見事な舵取りをされた。
- ・ リーダーシップがあり、2期目の働き方改革などのビジョンにも期待できる。

以上のような理由から、吉川候補を次期病院長候補者として推薦できると結論付けた。

今後公表する選考の過程、選考理由の文面について検討のうえ、最終的には委員長に一任することとされた。